

『ほんものはつづく つづけるとほんものになる』

本校は、「ふるさとを愛し よく考え 心豊かに たくましく生きる児童の育成」を学校教育目標に掲げ、ふるさと母子の地域教材を活用しながら人間力を高め、『生きる力』を育む教育活動を推進しています。また、阪神間唯一の完全複式学級、へき地指定の学校であり、その少人数と山間部の地域性を強みとしてとらえ、子どもたちが「母子で学んでよかった」「ふるさと母子は素晴らしい」と母子を誇りに感じられるよう教育内容の充実を図っています。学校教育活動全体を通して、母子の特色を生かした教育、家庭や地域と密接に連携した教育に取り組んでいる学校です。

教育課程では、

- ・ 『子どもの深い学びをめざしたつなぐ力の育成
～子どもがつくる算数科学習を通して～』を研究主題にした算数科教育
- ・ 個人の技と集団で演技を創る全校一輪車運動
- ・ 地元の伝統を受け継ぐ母子神楽

を三本柱として位置付けています。そして、この三本柱の取組と四季折々の母子の特色を生かした素材を基にして、保護者の皆様や地域の皆様のご支援をいただきながら取り組んでいる母子オリジナルの教育活動を「母子プラン」と名付け、実践を積み重ねています。本校が発行する冊子「母子の教育」は、「母子プラン」にもとづいて推進してきた取組をまとめたものです。

本校は平成24年度より小規模特認校制度を導入しています。現在、全校児童11名のうち9名の児童が制度を利用し通学しています。今後も特認校生が増えることが予想されます。

令和5年度は、母子小学校創立150周年記念の行事を地域とともに実施することができました。また、全国へき地教育研究大会の分科会会場校として研究授業を公開し、母子の特色ある取組を全国に発信することができました。

児童一人ひとりが自分に自信と誇りを持ち、ふるさとを愛し、未来に向かって力強く羽ばたく人間に育つことを願いつつ、今後も子どもたちの成長を見守り、取組に評価と改善を加えながら、『子どもたちが主役である ほんものの教育』を目指した実践を積み重ねていきたいと考えています。

三田市立母子小学校
校長 阿部 恭大